

全仏オープンテニス観戦記

先週の6/4-6/9に全仏オープンテニス大会の観戦に行ってきました。50歳を過ぎてからテニススクールに通い始め、下手ながらも漸くテニススクールの中学生や同期の皆さんとテニスを楽しめるようになりました。

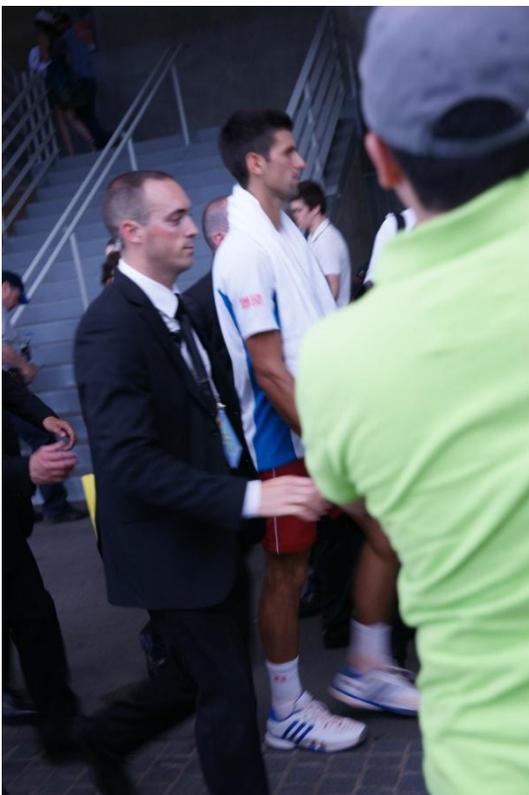
リタイアしたらテニスの4大大会(全仏(ローラン・ギャロス)、全英(ウインブルドン)、全米、全豪)を観戦するというのが夢だったのですが、中々完全リタイアできず、時間が取れなかったものの、今回はちょっと強引に休みを取り、慣れ親しんだパリで5/26-6/9に開催された全仏オープンテニス大会の男女の準決勝4試合の観戦に行ってきました。

M.シャラポア-V.アザレンカ、S.ウイリアムズ-S.エラーニ、R.ナダル-N.ジョコビッチ、D.フェレール-J.W.ツォンガ戦の何れも面白かったのですが、特に事実上の決勝戦だったナダル-ジョコビッチ戦は4時間半を超える壮絶な戦いでした。とても人間業とは思えない体力・スピードと技量のぶつかり合いで、物凄い声援の中、他の観客と共に大いに盛り上がりました。

年に1-2回はお台場・有明のテニスコートにフェデラー、シャラポア、錦織達のプレーを見に行くのですが、日本の場合は自らテニスを楽しむオジサン・オバサンの観客がちょろちょろと居る程度(週末でも数千人は入れは良い方)なのに対し、ローラン・ギャロスでは自らはテニスを嗜まない人達も多数観戦していました。15,000人収容のメインコートもほぼ満席で、そのため私は旅行代理店経由で定価の7-8倍の価格でチケットを購入せざるを得ませんでした。

有明とは違いコート周りに緑も多く、そこでの軽食も気分良く、また近くのコートでは往年の名選手 M.ヒングス、L.ダベンポート、J.マッケンロー、M.ヴィランデル達によるレジェンド・マッチも開催されお祭り気分一杯でした。

4大大会に続く大きなテニストーナメントが日本を去り、中国での開催が増えています。イギリスやフランスの様に日本でも一部の愛好家だけではなく多くの人々がテニスに興味を持ってくれば大会に大きなスポンサーが付き、日本でも(高額のチケットを買わずに)トップクラスの選手たちの試合を多く見る事が出来るのにとつくづく思った次第です。今週世界13位にランキングされた錦織圭のますますの活躍に期待大です。



2013/06/13 3組 原田義則

写真説明

写真① 練習帰りのジョコビッチ

写真② メインコート隣のコート7

写真③ M.シャラポア-V.アザレンカ戦試合前
練習風景(電光掲示板の向こうにエッフェル塔)



写真② ↑

写真③ ↓

